



4
2016. Apr

No.729



143年分のありがとう

私たちの町は、このままでいいのだろうか？

これからの新しい涌谷のまちづくり

涌谷まち・ひとデザインラボ



涌谷を愛する人の、

涌谷を愛する人による、

涌谷を愛する人のためのまちづくり

平 成27年12月にスタートし、3月まで駆け抜けた地方創生事業「涌谷まち・ひとデザインラボ」。

涌谷町では、平成25年度から住民が考えた活動を支援する「涌谷町かがやく協働まちづくり補助金」を実施してきました。

平成27年度に入り、申請数が増加。まちづくり・町興しへの機運が高まってきました。

その状況をさらに加速させるために始まったのが、「涌谷まち・ひとデザインラボ」です。行政と町民が一体となり、考え話し合える場を整備し具現化を目指しながら涌谷のブランドを創出。合わせて、涌谷のこれからのまちづくり・町興しを持続的に担えるリーダーの育成を目的にスタートしました。

初回の12月27日(日)には、事前の告知期間が短かった上に、師走の週末という条件にもかかわらず、当初の想定を大幅に上回る約60人の人々が集結。「私たちの住む涌谷町

は、本当にこのままでいいのだろうか」。集まった人々の語りあいからそういった思いがにじみ出ていました。

その後、先進地視察と7回のワークショップを開催。

先進地視察では、自治体としての「ブランディング」の先駆け・山形県朝日町へ。町を挙げて取り組む「ブランディング」を肌で感じてきました。

講座では、全国各地さまざまな先進的なまちづくり・ものづくり・観光開発などを手掛ける講師陣が講演。参加者は、それぞれが考えるまちづくりに胸を熱くしていました。そして、講演をもとに、「商品開発」チームと「地域資源発掘」チームに分かれて具現化に向け実践。定期の講座以外に自主的に集まり、フィールド調査や商品の試作など検討を重ねることもありました。

生み出した成果品をたずさえて、3月8日(火)から10日(木)の3日間、仙台市青葉区で開催された伊達美味マーケットにおいて、涌谷町を自分たちの手で発信してまいりました。



(左)参加者発案の涌谷のこれから (中)それぞれが考えるまちづくりに熱を込めて発表 (右)先進事例に聞き入る。真剣にこれからの涌谷を考える

キーワードは“稼ぐ力”

涌谷まち・ひとデザインラボで何を学んだか



稼ぐ力なくして、地域ブランディングは成り立ちません。視察や全8回の講座をおして学んだ共通点は、「稼ぐ力」を養うこと。

人口が減少し続ける中、地方が生き残っていくために必要なことがあります。単に魅力的な資源を有するだけでなく、外貨を稼ぐために、魅力を活かし経済へと反映する「稼ぐ力」が求められます。

その「稼ぐ力」は、大きく3つに分類できます。

一つ目は、「発見」。元々地域に根付く物事こそ、他には無い物語を持った独自の魅力となり得ます。その魅力を掘り起こすことが重要です。

二つ目は、「磨く」。他の地域が持つ魅力に負けぬよう、磨き上げる必要があります。

三つ目は、「発信」。磨き上げられたすばらしい魅力であっても、誰も知らなければ意味がありません。他の地域から訪れてもらう、または、購入してもらえよう、情報は、情報発信が必要となります。

また、現代の新たな資金調達「クラウドファンディング」といった将来的に自立した事業を展開したり、町興しへと結びつけるために有効な手段も学びました。

「磨く」
ずっと待っていた念願の企画



商品開発チームリーダー
千石めぐみさん(7区)

食に限らず、観光や文化など総合的に涌谷を外部に発信するチャンス待ちを望んでいます。
個人レベルでは難しいことを「同じベクトル」を持った人たちが、同じところに集まって学び、発信する大きなチャンスに。自分としても考えたことを形にできました。伊達美味マーケット出店は、大切に育てあげた娘（小ねぎボーロ）を嫁に出すような思いでした。

り、手応えを感じています。点が線、面となっていた今回の「涌谷まち・ひとデザインラボ」の取り組み。大きな初めの一歩になりました。今後さらにつながっていくと思うと思います。
自分自身としては、3カ月という短期間、リーダーを務めました。苦しいとかタイドとは感じず充実した毎日でした。

今後は、温めているアイデアがまだまだあるので、つながった仲間と一緒に磨き上げていきたい。そのほかにも、町の遊休施設を利用するなど、



(左)お客さんの反応を感じながらスイーツ3点セットを提供(右)試作の試食会では、14品のアイデアを形に



(上)おひさまスマイルで取り組みを紹介
(下)仙台でもママ目線で活動

普段子育て支援サークル「おひさまスマイル」を運営していて、今回は「ママ目線」でまちづくりに役立てればと思いましたが、参加しました。
伊達美味マーケットの outlet に向けて、スイーツを完成できました。ただ、今回の取り組みは、あくまで通過点だと思います。
「どこで買えるか」という話や涌谷の人たちからも「食べてみたい」という話を頂いています。
今後も、同じ目的を持った人たちともに集まり、一緒に盛り上がりながら思いを共有し参加していきたいです。



商品開発チーム
大橋ひとみさん(日向区)



涌谷まち・ひとデザインラボの一員として、仙台で涌谷を積極的にPR

私は埼玉県出身ですが、母親の出身が涌谷なんです。今回は、東京から異動してきたこともあり、そのルーツをたどってみたいと思い、参加してみました。
ヨソモノの自分を温かく受け入れてくれ、涌谷の「金」や「小ねぎ」、「温泉」などたくさんのお話を聞くことができました。
一人一人がやる気のある人たちの集まりの「涌谷まち・ひとデザインラボ」。実践的な取り組みで、自分の学びにも。ヨソモノ視点で、涌谷のまちづくりに継続して参加していきたいと思っています。



商品開発チーム
小島由佳子さん(仙台市)

NONODAKE CAMP2015

NONODAKE CAMP2015の開催に昨年かかわったときに、遠方から涌谷に来る人に、涌谷のおすすりめできる場所がなかった自分について、嫌な思いをしたのを覚えています。だからこそ、涌谷をもっと知りたい、人とのつながりを増やしたいと考えていました。ラボの一員として活動しながら「産直センター黄金の郷」や「商工会青年部」に会員として加わり、涌谷の情報を得られ勉強になりました。

また、その一方で、全国各地方創生の先行事例を手掛ける講師陣からの講演や山形県



発見
笠岳山という宝の山を見つけた

地域資源発掘チームリーダー
及川達也さん(2の1区)

朝日町への視察をとおして、涌谷の町興しのためにやらなければいけないことが見えてきました。お金に変えられないものを得られました。

笠岳山石仏広場には、キャンプ施設があります。しかし、NONODAKE CAMPの時にはほとんど利用されませんでした。個人的には、そういった元々ある資源を、つながった人たちの協力を得ながら、笠岳山に行きたくなるような取り組み、いかし方をしたい。

そのためにも、今回は、あくまで始まりと考えます。人



(左)雪の積もった石仏広場をチームメンバーとともに視察(右)笠岳山にある宝を1枚に凝縮した笠岳山マップ

が集まって協力し合い、涌谷を盛り上げていく場を継続させていかなないと意味がありません。地域資源をいかすことで、涌谷の経済を循環させられるような場・組織の立ち上げを考えていきたいです。



地域資源発掘チーム
伊野原元基さん(吉住区)

今回の取り組みの開催を知り、町民の皆さんとともに、一町民として町興しに携わりたいと思ったのが、動機。勤務する防災交通室では、どちらかというとお願いする立場が多いのですが、町民の皆さんと同じ目線で、町をより良くしていこうと一緒に取り組むことが新鮮でした。今回の経験を、今後の行政での勤務にも役立てていきます。また、講座をとおしてこれまででない発想の仕方など自分磨きにもつながりました。今回をきっかけに一人の町民としてさまざまなことにかかわっていききたいと思います。



防災担当としてはなかなか経験しない涌谷の魅力の発信



地域資源チーム
及川ふじ子さん(大谷地区・左)
商品開発チーム
宮城せよさん(上町区・右)

昔に比べて涌谷がさみしいと思っていると、産直でラボのチラシを見ました。自分も役に立っているのではと思い立ち参加することに。参加してみると学ぶことが楽しくて、夜中まで仕事して、ラボに参加できるように調整するほど、夢中になっています。涌谷には良いところがたくさんあるのに、涌谷の人たちは、伝えることが苦手。自分たちがもつと伝え方を勉強して、涌谷を発信していきながら、仕事にもいかしていきたくて考えています。まずは、Facebook-LINEを始めてみました。



(上)ワークショップで積極的に発言
(下)野菜の販売をとおして涌谷を発信



涌谷新スイーツ3点セット

商品開発チームでは、涌谷の地域資源「金」・「小ねぎ」・「おぼろ豆腐」にスポットをあて、新たな涌谷の名物とすべく新スイーツ3点を開発し、商品化を目指しました。

「金」は、涌谷の地酒・黄金傳と金粉をまとわせた濃厚なシヨコラに。「小ねぎ」は、甘さと香ばしさの中に小ねぎが香るボーロ。そして、「おぼろ豆腐」は、ミヤギシロメ大豆の風味をいかしたシェイクに。

元々ある涌谷の食の資源を見つめ直し、これまでとは異

なつた切り口で味わる逸品となっております。

伊達美味マーケットでは、3日間で100食ずつ提供。最終日は、わずか20分で終了。また、ただ提供するだけではなく、ブランディングをにらみ、POP類などのデザインにも注力。涌谷出身で現在埼玉県在住のグラフィックデザイナー菅家郁美さんが遠隔地からラボに参加し制作。

そのほかにもアンケート収集によるマーケティング調査を実施。今後の継続した展開に向けた取り組みをチーム一丸となり実践してきました。

発信！

仙台市・伊達美味マーケットで実践 涌谷まち・ひとデザインラボの成果を披露



そこに暮らす人たちだからできた涌谷の魅力発信ツール

地域資源発掘チームは、3チームに分かれ、それぞれが涌谷の魅力を発掘。

一つは、篁岳山にスポットをあて、地元涌谷町民でも知られざる魅力が詰まった「篁岳山マップ」。もう一つは、地元住民だからこそ知る涌谷の隠れた魅力を記した「涌谷黄金地図」。そして、涌谷の魅力を1枚の写真と秀逸なコピーライティングでまとめた「ポストカード」。

仙台の行き交う人々に、各チームのメンバーが声をかけ、足をとめてくれた人に、涌谷の魅力を紹介しました。特に、「ポストカード」には、海外の人が多く足をとめ、涌谷の美しい景観が描かれたお気に入りの1枚を持ち帰っていました。他に、「最近移住してきたので、今自分が住んでいる場所を友達に紹介したい」と持ち帰る人も。

また、「友達が涌谷にいて行ったことがある」や「涌谷に住んでいたことがある」という人が懐かしそうに立ち寄っていました。

一方で、「涌谷って、どこにあるんですか?」という声も多数聞かれ、今後に向けた課題を抽出する機会にもなりました。

仙台で商品化第一号

伊達美味マーケット出店時に、仙台朝市で涌谷とうふ店の商品を取り扱う「朝市カフェ」の店主が来場。

スイーツ3点セットを試食し、その中の「おぼろシエイク」を夏にかけて、若い女性をターゲットに提供したいと商品化の話の頂きました。

流行中の「ずんだシエイク」に勝る人気スイーツになることを期待します。



平

成28年度から計画実施期間となる「第五次涌谷町総合計画」は、今後10年間の涌谷町の指針となる計画です。その計画においても

「協働のまちづくり」は、「まちづくりシンボルプロジェクト」として位置付けています。今後、自分たちが住む地域の課題について町民の皆さんが自発的に学び、考え、行政との協働によって住みよい豊かな涌谷町の創出を目指します。

今回の「涌谷まち・ひとデザインラボ」のファシリテーターを務めた株式会社都市設計の取締役・氏家滉一氏は、伊達美味マーケット後の反省会で次のように話しました。「まちづくりにおいて最も大切なのが『人』です。町を良くしていくためには、そこに住んでいる人が熱意を持たないといけない。そして、ま

ちづくりは、行政がやらないから、予算が無いからやらないと絶対に言ってはいけない。今回集まった人たちは『伊達美味マーケットがとりあえず終わって良かったね』と自己満足して終わる人たちではなく、一度やってみた反省点を踏まえて、次をしつかりと考えている人たち。

涌谷の地方創生は、まだ始まったばかりです。涌谷のブランドを行政が一方的に決定してしまうことは簡単です。しかし、携わる人や地域といった基礎がしつかりとできていないブランドは、ぜい弱な偽物のブランドです。

本物のブランドを創り上げるためには、まずは「人」づくりをしなければなりません。自らが主体的に考え行動する「これからの涌谷を担う人財」を育成してまいります。「人財」には、「町民」や「行政」

といったくりは不要です。

「涌谷を活気あふれる町にしたい」と同じ志を持ち、共に汗をかき、歩んでいける仲間が一人でも多く必要です。

「涌谷まち・ひとデザインラボ」は、平成28年度も継続します。これまでの「地域資源発掘」と「商品開発」に、新たに「農業」部門を加え、1年間をとおして取り組んでまいります。

「自分も涌谷のために仲間を増やしたい。そして、取り組みに参加してみたい」という人や、「涌谷で起業したい」、「涌谷の町のためにNPOを立ち上げたい」という人は、涌谷町企画財政課までお問い合わせください。町外在住でも歓迎します。

▼問い合わせ先

企画財政課企画班
☎0229-4312112

これは、まだまだ序章に過ぎない

涌谷の地方創生の本格化はこれから

もっと詳しく活動内容を
知りたいという人は

これまでの「涌谷まち・ひとデザインラボ」の取り組みについて、公式ウェブサイトやFacebookページ、YouTube動画などで紹介しています。興味を持ったので参加してみたいという人は、そちらをご覧ください。



YouTube動画
スタートアップ編



YouTube動画
朝日町視察編



公式サイト: <http://wakuya-lab.jp/>

電気自動車をもっと身近に

日産自動車から電気自動車が納車



3月14日(月)に、日産自動車から100%電気自動車「e-NV200」が納車されました。日産自動車の電気自動車活用事例創発事業「EVをもっと身近に!プロジェクト」に涌谷町が提案し採択された結果、今後3年間、無償で貸与されることになりました。

この「e-NV200」のバッテリーは、1500Wで一般家庭の2日分の電力をまかなうことができ、災害時には電源としても活躍するそうです。

町では今後、総合防災訓練などで使用していく予定です。

高齢者にとって安全で安心なまちづくりへ

河北新報販売所と協定を締結



3月14日(月)に、河北新報を取り扱う涌谷販売所など6販売所と高齢者見守りへの取り組みに関する協定を締結。

この協定により、河北新報販売所の日常の配達や営業活動時に独居高齢者宅の訪問や認知症などによって徘徊する人を発見した際に保護するなどの協力を得られるようになりました。

涌谷販売所の小山所長は、「過去に徘徊する人を保護したことがある。今後は、従業員に協定の趣旨を徹底したい」と安心安全なまちづくりに対する抱負を話されました。

昭和62年の卒業生が恩師を囲んで

篔岳小学校で閉校記念授業



3月5日(土)に、篔岳小学校で、昭和62年の卒業生が、当時の担任及川和弘先生を迎え、閉校記念の授業を催しました。

約30年ぶりに篔岳小学校の教室に座った卒業生を前に、国語「桃花片」を読むというテーマで授業が展開。この授業には、及川先生からの「篔岳の地で学んだこと、その気風を伝えてほしい」という思いが込められていました。

その後、卒業制作のトーマポールを手に記念撮影をし、久しぶりの母校を懐かしんでいました。

東日本大震災から5年目の節目に

篔峯寺で犠牲者の供養法要



3月11日(金)に、篔岳山篔峯寺において、天台宗陸奥教区の人々によって、東日本大震災でお亡くなりになられた故人に対する鎮魂供養法要が執り行われました。

この法要は、東日本大震災から5年の節目にあたり行われたものです。多くの町民の皆さんが参列し祈りました。

また、涌谷町としてもお亡くなりになられた故人への追悼と一日も早い復興を祈念し、震災が発生した2時46分に合わせて防災行政無線からサイレンを放送し、黙祷を捧げました。

ぽかぽかタイム付おひさまカフェ

2月26日(金)に、「運動不足解消!ぽかぽかタイム&おひさまカフェ」を開催。インストラクターはスタッフの斉藤祐子さん。懐かしのヒット曲に合わせて、軽快なステップとストレッチで楽しく体を動かしました。運動後は、カフェをオープン。今回の手作りデザートは甘夏のピール入りシフォンケーキと桑の葉のほうじ茶。さらに、今回特集された「涌谷まち・ひととデザインラボ」で考案した新涌谷スイーツ3点セットがモニター試食として提供され、おいしい話題たっぷりのカフェになりました。



町民防災講演会を開催

3月6日(土)に、町民防災講演会が開かれました。この日は、東北放送の気象予報士の星野誠氏を講師に迎え「激甚化する気象災害にどう備える」というテーマで講演。「近年の災害は、局地化・集中化・激甚化が進行し、これまでは起こりえなかった現象が発生し、大規模な被害に発展しやすくなっている。そのような現状を踏まえ、ハザードマップの整備や避難指示の迅速化などのソフトの充実といった新たな災害への備えが必要」と話されました。



しろやま きん
城山の金さん徒然日記

ユアテックスタジアム仙台で躍動!



3月12日(土)にユアテックスタジアム仙台において行われたJ1ベガルタ仙台の2016シーズンホームゲーム第2戦鹿島アントラーズ戦にお邪魔してまいりました。今回は、昨シーズンに引き続き、菅井直樹選手、金園英学選手、金久保順選手、キムミンテ選手の4選手に、ベガルタ仙台マスコット「ベガタ太」殿も加えて5人を涌谷町黄金大使に任命してまいりました。また、任命式に合わせて、4月3日に改装オープンをひかえるわくや天平の湯の入浴招待券をサポーターの皆さんに配布してまいりました。今回配布した枚数は、約1万枚。ベガルタ仙台にとってチームカラー

「ベガルタゴールド」で大きな縁を持ち、パワースポットといっても過言ではない涌谷町に、一人でも多く訪れていただきたいのう。黄金大使に任命された選手の皆さんにも、日頃のハードなトレーニングの疲れをいやしに、来ていただくと幸いです。なお、この日は、黄金大使の金久保選手が先制点をあげた。その後、強豪の鹿島アントラーズらしい猛攻があったのじゃが、死守し、見事に撃破。わしらが邪魔したことで黄金のパワーが届いたのかもしれない。この勝ち星を皮きりに、今期の上位進出に向けて勢いづいてくれることを期待いたします。



新生「涌谷中学校」として 第一回卒業式を挙行

一期生の誇りを胸に



(上) 新生「涌谷中学校」の一期生として堂々と胸を張り卒業証書を受け取る。
 (中) 開校と統合、そして、開校を支えてきた2人による答辞。脳裏にさまざまな思いが去来。
 (下) 2人の思いが他の卒業生にも伝播。式場にいる人々が感動の涙を流した。

3月12日(土)に、涌谷中学校で、旧涌谷中学校と箕岳中学校が統合し、新生「涌谷中学校」として初めての卒業式が挙行されました。最初の卒業証書は、当然のことながら第1号。新たな歴史が築かれた証です。

2年生のときに統合と開校への準備をし、3年生では新生にして町に唯一の中学校の歴史の最初の一ページを記すべく駆け抜けてきた生徒の皆さん。そのような濃密な中学校生活を送ってきた卒業生らしく、個性豊かな授与式となりました。

授与式は、校歌の3番にある「若き希望に胸を張り」というフレーズをまさに体現するかのような姿でした。

忽那校長の式辞では、中国の古典・後漢書にある「疾風に勁草を知る」という言葉を用いて「厳しい試練にあっても逃げることなく、

高い『志』をもって行動できる強い人間となり、激変の続く社会の土台を築いていってほしいとはなむけの言葉が贈られました。

在校生代表からの送辞では、3年生との思い出と感謝、そして、これからの涌谷中学校を自分たちが背負っていくという決意の言葉が贈られました。それを聞く卒業生たちは、一つ一つの言葉をかみしめるように聞いていました。

その後、初代生徒会長の熊谷陽希くんと生徒会長代行の浅野風都くんの2人が答辞で、激動の中学校生活における思い出、後輩への激励、恩師と保護者の皆さんへの感謝の気持ちを伝えました。その思いが会場を満ちし、感動の涙で包まれました。

新生「涌谷中学校」の基礎を見事に築き上げた卒業生の皆さんの活躍が期待されます。